

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタテクニカルセンター下山II期中工区 宅館2 立体駐車場	階数	地下0階地上5階
建設地	愛知県豊田山下山代町後山下切1-4 他19筆	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,085時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年12月 予定	評価の実施日	2021年4月13日
敷地面積	65,547 m ²	作成者	森 明生
建築面積	3,028 m ²	確認日	2021年4月13日
延床面積	15,063 m ²	確認者	森 明生

外観パース等
(外観パースが無い場合、立面図等を添付すること)

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1 ★★★★★</p> <p>環境品質 C (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (46 kg-CO₂/年・m²) ②建築物の取組み: #DIV/0! ③上記+②以外の: #DIV/0! ④上記+: #DIV/0!</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.9</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>N.A</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>75.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.7</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能								3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0		
1.3 吸音								3.0		
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温				3.0	-	-		3.0		
2 外皮性能				3.0	-	-		3.0		
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-		-		
2.2 湿度制御				3.0	-	-		3.0		
2.3 空調方式				3.0	-	-		3.0		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率				3.0	-	-		3.0		
2 方位別開口										
3 昼光利用設備				3.0	-	-		3.0		
3.2 グレア対策										
1 昼光制御				5.0	-	-		3.0		
3.3 照度				3.0	-	-		3.0		
3.4 照明制御				3.0	-	-		3.0		
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				3.0	-	-		3.0		
4.2 換気										
1 換気量				3.0	-	-		3.0		
2 自然換気性能				3.0	-	-		3.0		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-		3.0		
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-		-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-		-		
Q2 サービス性能						0.43				2.9
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				3.0	-	-		3.0		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-		3.0		
3 バリアフリー計画				3.0	-	-		-		
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-		3.0		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-		-		
3 内装計画				3.0	-	-		-		
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-		-		
2 維持管理用機能の確保								-		
2 耐用性・信頼性				0.5	2.7	0.52				2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	2.1	0.33				
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.42				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					1.0	0.42				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.17				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	-				
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	-	-				
2 給排水・衛生設備				3.0	-	-				
3 電気設備				3.0	3.0	1.00				
4 機械・配管支持方法				3.0	-	-				
5 通信・情報設備				3.0	-	-				

3 対応性・更新性				0.4	3.1	0.48	-	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり				0.3	1.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	1.0	1.00	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	-	-	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	5.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	-	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	5.0	0.50	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	5.0	0.50	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	-	-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.9
1	生物環境の保全と創出	独自③	生物環境に関して調査を行い保存、復元計画を実施	-	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		冷却塔や室外機を設置しない。高温排熱の放出部を設置しない。	-	4.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制			3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用			3.0	-	-	-	-	-	-
3	設備システムの高効率化		BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
4	効率的運用			0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	2.6
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1	節水			3.0	-	-	-	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1	材料使用量の削減	②		-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	独自	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	3.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	-	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	-	-	-	-	-	
3	冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	3.5	0.50	-	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止		燃焼機器を使用しない。	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	-	-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	十分な駐車スペースの確保	-	5.0	0.33	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.33	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタテクニカルセンター下山Ⅱ期中工区 宅盤2 立体駐車場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策				N. A	
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00		
② 資源の有効活用					2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19		
③ 敷地内の緑化				4.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.17	外構緑化:75%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■ 建物名称

トヨタテクニカルセンター下山Ⅱ期中工区 宅館2 立体駐車場

計画上の配慮事項	
総合	認定駐車場であるため、開放性の高い建物となっている。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	建築基準法で定められた耐震性を有している。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯に努めるため、防犯カメラの設置を予定している。
LR1 エネルギー	自然通風、自然換気としている。
LR2 資源・マテリアル	汚染物質を含まない材料の使用に努めた。
LR3 敷地外環境	適正な駐車スペースを確保している。
その他	特になし